（様式1）　　平成　22　年度

1　自己評価（1階）及び第三者評価結果（3ユニット総合）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2873003061		
法人名	社会福祉法人　田能老人福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　グループホーム「春日の家」		
所在地	尼崎市田能5丁目10番25号		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873003061&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	平成23年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自己主張が多いユニットではあるが、個々の特性を活かせた援助に努めている。また、調理など、自分にとって、やりがいのあるものなどをなるべく多く探し、職員と一緒にやり、自信を持った生活が送れるよう支援することに力を入れている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

3ユニットのホームは、各階1ユニット（建物1～3階部分の各階に1ユニット）でわかれている。1ユニットが少人数（6名定員）であり、非常にアットホームな雰囲気である。個別の介護計画は、各ユニット毎の利用者の個性及び身体状況に合わせた支援の内容となるように検討がされている。利用者のADLの低下に伴い、日常の外出（買い物等）はどうしても車での移動が多くなってきているため、天候の良い日は、出来るだけ近くの農業公園や河川土手や屋上を利用し、外気浴の機会を確保する様にしている。併設の特養・デイサービスとの連携も多く見受けられ、利用者の楽しみ事への支援にも多く繋がっているのは利点である。フロアの環境は、台所からの見守りがしやすく作業動線も良い。また、活性機能水生成装置の導入もされている。「音楽療法」「屋上での花火見物」「編み物教室」「手作りおやつ」等々、多くの行事・レクレーションを企画し実践をしている事業所である。また、地域企画の「ハイキング」「バーベキュー」にも参加をして交流の機会を確保している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・目につくところに理念「いつも一期一会。今を大切に」「ゆっくりゆったり共同生活」「さりげないお膳立てと助け舟」を掲げ共有し、実践に繋げている。	グループホームの理念「いつも一期一会。今を大切に」「ゆっくりゆったり共同生活」「さりげないお膳立てと助け舟」を掲げている。ユニットごとに、この内容をテーマに話し合いを持ち、実践に繋げている。	含蓄のある言葉を選んでおり、職員研修にも使える内容である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事等に参加したり、散歩時に挨拶をしたりして、顔なじみの関係を作っている	地域の春日神社で行われる秋祭りやボランティアによる活動等、自治会活動に参加している。毎月の清掃活動や、老人会にも参加しており、食事会への招待もある。	地域行事が多いので、今後も継続して積極的な参加が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・グループホームとして、地域の人に具体的な講義を開いたりはしていないが、交流行事に参加したときなどに施設の説明や、支援方法の説明をしたり、施設見学や、入居者が地域行事に参加した際に理解を促している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に会議を行っている。利用者家族等からの意見を会議の議題に取り上げて、サービスの向上に活かせるよう努めている	運営推進会議が定期的に、毎回日曜日に開催されている。自治会の会長も参加し、家族全員に声をかけており、欠席者には毎回議事録を渡している。	行政職員の出席しやすい日程も組み込み、情報の伝達など、積極的に活用することを検討してはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・積極的に伝えているかは不明であるが、市の相談員に入居者と話をし、その内容を聞き、サービス向上に繋げれるよう努めている	市町村との連携は、施設長が積極的に行っており、法人としての取り組みをPRしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は入居者の安全のために行っているが、なるべく外に出たい入居者の希望に添えるよう努めている。また、身体拘束をしないケアに取り組み努力している	各階での行き来はエレベータが自由に使え、好きなフロアに移動が可能である。身体拘束への取り組みについては、朝のミーティングなどを通じて報告を受けており、施設長を中心に取り組みがされている。	取り組みに対しては、まだまだ職員のレベルまで浸透していない部分もあり、今後の研修などの取り組みが期待される。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・虐待が行われることがないようケアに取り組んでいる。また、勉強会などを通じて、虐待防止など学ぶ機会を設けている	虐待防止の研修では、共通のテーマを用いた良い取り組みがされている。特に言葉遣いに対する注意なども行っている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、実施できていないが、今後、社会福祉士や司法書士を招き、勉強会を実施する予定にしている。以前、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ったことがある	フロアーによって取り組みの差が有る。成年後見制度の活用事例もあり、事業所全体としての取り組みを検討中。法人内研修でも、学ぶ機会を持っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に家族等に不安や疑問点等を聞き、十分説明を行い、理解、納得をしてもらった上で、契約を行っている	契約内容についての説明を行っており、不安な点や疑問点にも丁寧な対応を心がけている。	理解を深める必要がある場合、事前に資料を配布をすることも検討されたい。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱の設置や、口頭で言われたことなどを取り上げ、みんなで話し合う機会を設けている	2ヶ月に一回の頻度で運営推進会議が開催されている。家族や地域の方の意見を取り入れるようにしている。介護相談員が隔週に利用者と面談し、その後のミーティングで職員が話し合っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・意見があるときは、管理者に直接伝えたり、会議などで述べている	職員はグループホーム会議や、考案活動を通じて意見を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・以前に比べ、休みの消化等できてる。各自が向上心を持って働けるよう職場環境の条件等の整備に努めているが、さらなる努力が必要		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修を受ける機会を確保してくれているが、職員側にもやっていこうという気持ちが必要 ・新人研修を行ったり、指導者をつけての業務をおこなったりしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・各研修に出向いた際に、そういったネットワークを自分で確保している。また、そういったネットワークがあると聞いているが、入会はしていない		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所する前と同じ生活ができるように、本人の話や家族の話を聞き、不安を取り除くよう対応し、本人の不安や要望に耳を傾け、関係性を構築し、信頼してもらえるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービスを導入する初期の段階で、家族等の不安、要望に耳を傾けている。また、状況を報告したり、来苑の際には、様子を伝えるようにし、要望等を聞きながら、ケアに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービスを導入する初期の段階で、本人と家族が必要としている支援を見極め、面接や、情報収集を行ったり、会話等から伺う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者を介護される一方の立場だけせず、共に暮らす生活者同士の関係を築けるよう、得意なことをしてもったり、頼りにしていくことで自信をつけてもらっている。また、お互いの顔を覚えたり、ここいることを何となくわかってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と過ごしてもらえるような支援をするとともに、共に本人を支援する関係を念頭に、本人を中心としたサポートができるよう中立した立場をたてるよう心がけている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・実際にそのようなこに遭遇していないが、機会があるなら、支援してききたい。また、職員は、笑顔で対応していきたい	家族以外のなじみの関係も大切にし、各利用者の役割が実感できるよう、取り組んでいる。「おしゃべりノート」を活用し、その中から気付いたものをケアプランに落とし込んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者にも相性があるため、お互いの関係が悪化しないよう、会議等を通じて、情報交換をおこなったり、共同作業等を行ったりしている。また、職員が間に入り、関係を保っている		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス利用が終了しても、経過をフォローし、相談や、必要があれば、支援をしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・自分なりに、本人の意に添えるよう、会議や、普段の会話、生活背景等から、支援に努めている	各フロアーで多少の差はあるが、日常会話や、介護相談員の聞き取りなどからも、本人や家族の意向を聞き取りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の聞き取りや、生活歴、これまでのサービス利用などを通じて、把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の様子や、職員個々の対応や相談等により、現状の把握に努めている。また、日常生活介護記録等に詳しく記載し、情報を共有している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ユニット内だけで実施するのではなく、全体で取り組んでいる。また家族等にも意見をもらっている	各フロアー毎に、担当職員及びフロアーリーダーの意見を聞きながら介護計画を作成している。また、家族の意向や気付きなども取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子は日常生活介護記録等で共有し、連絡ノートや日誌等を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・サービスも外部から、訪問リハビリや美容などを取り入れている。また、家族の協力が得られない際もニーズに対応して、支援している		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ここでの生活をベースにできるよう努め、自治会を活用したり、地域の施設を利用したりしている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族が納得した上で、希望にそった主治医をみつけ、適切な医療を受けれるよう支援している	急な対応が必要な場合以外は、家族による送迎が原則となっている。もとからのかかりつけ医の方が数名いるが、協力医への切り替えした人も増えてきている。定期的な受診もあり、毎週の訪問歯科も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・個々に主治医が違うので、個々に応じた医療機関に入居者の状態や体調など説明している。適切な看護を受けられるよう支援している		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・全ての病院とはいかないが、受け入れてくれる病院には、サマリーを送り、情報を共有している	入退院時の対応は、主任が行っており、管理者が報告を受けて支援している。複数のメンバーがかかわり、一人での対応をしないようしている。	医療機関とのなじみの関係を構築するよう、意識した取り組みが望まれる。
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・話し合いは行っているが、実践はない。家族の希望に添えるよう考えている	現在、ターミナルへの具体的な取り組みはされていないが、利用者や家族との話し合いはしている。同じ法人の特養を活用した対応も視野に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的ではないが、救命講習を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・自治会や近隣、消防署と連携が取れるよう努めている。また避難訓練を実施している	法人の母体が地域の避難所となっており、夜間帯は2階と3階に一人ずつの職員が配置されている。町内会を通じて、協力体制を取るように働きかけをしている。	運営推進会議を通して、地域への働きかけが期待できる。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・その人の性格、人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう声かけを行っている	法人としての研修は行われているが、実務面での記録の書き方など、細かな所で注意すべき部分が有ると認識しており、今後の研修での取り組みが期待できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・なるべくしているが、全てを受け入れることはできていない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・なるべく本人の希望にそえるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝のブラッシング等行えるようにしている。ただし完全ではない		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者の食べやすいよう食事形態を変えている。また、できることをしてもらえるよう心がけている	献立は同じ法人の特養の管理栄養士が作ったものに、一品加えて作られている。食材を近くのスーパーなどに出かけることもあり、調理の得意な職員が中心になって行っている。下ごしらえや片付けなど、フロアーによって参加の程度は違っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取しやすいよう、本人の好きな飲み物や本人の好きなものを提供している。また、水分チェック表を作成し、水分量の把握に努めてる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分でできる方は口腔ケアを促し、できない方は、介助している。また、訪問歯科も利用し、ケアに努めている		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できる限りは一人で排泄してもらえるように2人介助などを実施している。また、下着やトイレ誘導の時間などにも工夫している	個人の仕草や排泄のパターンをきっかけに、トイレに誘導をしている。誘導時には、QOLや人権への配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・医療との連携、水分摂取や散歩等を実施し、適度に運動をしてもらっている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・自ら訴えのない方に関しては、こちらで定期的に入浴を促しているが、意思がある方は、声かけを行い、意に沿うよう支援している	基本は週に3回の入浴の機会を確保しており、曜日や時間帯は特に決めずに対応をしている。また、季節湯ではゆず湯や菖蒲湯などのイベント湯も楽しんでもらっている。	入浴の機会が、信頼関係の構築とアセスメントにつながる事をもう少し意識されると良い支援につながります。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体調により異なるが、日中活動してもらい、就寝前に足浴を行うなどしている。また、環境の配慮も心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・日常生活介護記録に処方箋等をはさみ、いつでも見れるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入居者の得意なことや好きなものを食べる機会を作っている。また、その人に応じた方法で気分を楽にしてもらい、張り合いや喜びのある日常を過ごせるように支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外食や近所の散歩等サポートしている。また、職員のみが付き添い、遠出することもある。今後は、家族等ふくめた外出をしたい	近くの散歩には家族の支援もあり、地域の自治会ハイキングにも参加している。年に1～2回、車で大阪城や科学館（プラネタリウム）などにも出かけている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の意思により、持てる方にはもってもらっている。おこずかい帳などにより管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があればやりとりができるよう努めている。また、手紙を渡したり、電話を取り次いだりしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・あまりごちゃごちゃ置くことはできないが、廊下や玄関に季節を感じてもらえるようなものを設置している	1階は人の出入りが多いという特徴を生かし、2階は落ち着いた雰囲気を大切にしている。3階は窓からの風景を楽しめる視点で取り組んでいるのが分かる。各フロアーのキッチン周りは、見守りのし易い配置になっている。	季節感が感じられる取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング以外の場所にも椅子を設置し、思い思いに過ごせるようにしている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には、本人が使用していた家具などを持ち込めるようになっている	各フロアーによりADLの違いもあり、対応は個別であるが、安全面に配慮し馴染みのある物（木彫りの熊やポスターなど）を持ち込むように配慮されている。各部屋の洗面や収納スペース、備え付けのベッドなど、部屋の使い勝手は良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の日常動作に応じた移動しやすい空間と、何でも撤去してしまうのではなく、その人たちの生活に合わせた家具の設置を考えている		